

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 2 NUMBER 4 2023



巻頭言 秋の研究会大会を終えて

令和5年度秋の研究会大会実行委員長 酒井 英樹 (カラーデザイン研究会主査)

令和5年度秋の研究会大会を、10月28日、29日の両日、オンラインで開催しました。例年より早い時期での開催でしたが(秋の大会史上初めての10月開催)、参加研究会は昨年と同様の9研究会、合同研究発表件数も昨年と同じく19件、参加登録者数も100名を超える大会となりました。詳しい開催報告は、次号に掲載いたしますが、まずは、この場をお借りして、参加いただきました会員の皆様、大会運営にご尽力いただきました実行委員、事務局の皆様、に厚くお礼申し上げます。

歴史ある日本色彩学会ですが、全国規模の大会を年2回実施するようになったのはわずか10年前、池田光男会長(2013年度会長、東京工業大学名誉教授)の下、2013年に秋の大会が新設されてからのことです。第1回大会の趣旨説明は次の通りでした。

「学会活性化に向けた取り組みとして、春の全国大会だけでなく、秋の大会を開催することになりました。この秋の大会は、会員、特に地方会員の拡大、若手研究者の育成(発表の機会増)、研究会の活性化等を目的とし、一般研究発表はもとより、研究会の研究発表やワークショップ、特別講演、見学会などを柔軟に組み合わせ、春とは一味違う内容を目指しています。」

(日本色彩学会ニュース No.284, 2013年7月号より)

秋の大会として、第1回を2013年倉敷で、第2回を2014年静岡で開催した後、2015年はAIC2015東京開催のため休止となりましたが、2016年からは、春の全国大会との「味」の違いを明確にする目的で、研究会活動にフォーカスした研究会大会として再開し、

ACA2019名古屋開催のための休止を挟みつつ、コロナ禍をきっかけに、2020年度からは遠隔で開催し、今年度で通算9回目を迎えることができました。

日本色彩学会 “秋の大会”のあゆみ*

- 2013年11月 第1回秋の大会(倉敷, 河本健一郎)
- 2014年11月 第2回秋の大会(静岡, 鈴木敬明)
- 2016年11月 H28研究会大会(大阪, 土居元紀)
- 2017年11月 H29研究会大会(名古屋, 羽成隆司)
- 2018年11月 H30研究会大会(東京, 坂本隆)
- 2020年12月 R2研究会大会(遠隔, 高橋晋也)
- 2021年11月 R3秋の研究会旬間(遠隔, 鈴木卓治)
- 2022年11月 R4秋の研究会大会(遠隔, 溝上陽子)
- 2023年10月 R5秋の研究会大会(遠隔, 酒井英樹)

* () 内は、開催場所と実行委員長(敬称略)

研究会大会への誤解の1つに、春の全国大会や当初の秋の大会にあった一般研究発表・作品発表がなくなってしまったため、研究会に入っていない学会員には、敷居の高い大会である、というものがあろうかと思えます。もちろん、そんなことはなく、どなたでも聴講いただけますし、現在11ある研究会とも、気軽に入会できる開かれた存在です。各研究会の活動内容、問い合わせ先は、学会ホームページ

日本色彩学会 研究会活動

<https://color-science.jp/society/>

に掲載されています。まだどの研究会にも入っていない、という方は、ぜひ、お気軽にご興味ある研究会にお問い合わせください。複数加入も歓迎いたします。皆様の参加をお待ちしています。